

第2回文化芸術によるまちづくり座談会 議事要旨

日時	2014年10月24日(金) 午前9時～12時
場所	町田市役所2階 市民協働おうえんルーム
出席者	座長 市川宏雄氏(町田市未来づくり研究所所長、明治大学教授)
	委員 伊藤せい子氏(江戸川区総合文化センター館長、サントリーパブリシティサービス株式会社)
	委員 西茂弘氏(株式会社オン・ザ・ライン代表取締役社長)
	委員 美山良夫氏(慶應義塾大学教授)
	町田市長 石阪丈一
	町田市副市長 高橋豊
	町田市副市長 有金浩一

資料 第2回文化芸術によるまちづくり座談会(スライド)

議事

1. 議題:シンボルとしてのホール

事務局が資料を用いてシンボルとしてのホールについて事例紹介を行い、委員による意見交換を行った。

委員:ホールの外観や規模は、まちづくりのソフト面かハード面のどちらを重視するかによる。立地によっても左右されるので、試行錯誤されるとよい。

委員:何に焦点を当ててホールをつくるのか。まちのシンボルとなるホールがよいのか、町田が有する大きなマーケットを活かして、多くの若者がホールを訪れるソフトを重視するのか。この座談会を通じて焦点を絞り込んでいく必要がある。

委員:大切なことは、ホールと土地が抜き差しならない関係にあることである。町田市がホールを建設する理由を明確にしなければならない。町田の人々の誇りとなり、町田に住みたいと思われるような起動装置としてのホールになることをはじめ、様々なことが要求されている。大きなビジョンのなかにホールを位置付ける必要がある。

委員:シンボルとは何かを考える必要があるが、理想はソフトとハードの両立だろう。難しいことではあるが、現段階で検討すべきは、町田にとっての象徴やモチーフとは何かということだろう。ソフトの内容についても決める必要がある。

委員:芸術文化やまちづくりというキーワードから、水戸美術館と金沢21世紀美術館について話をしたい。この2つの施設の共通点は、芸術の力を認識した上で、その芸術が街に影響を及ぼすようにしてつくられていることだ。

よく「芸術」と「文化」は同じようなものとして語られるが、「文化」は日常生活の質を高めるものであり、一方、「芸術」は日常を超えた次の新しい価値をつくっていかうとするものである。

2つの施設は「都市空間のランドマーク」として機能することであり、設置することで街

の歴史を転換しようとした「時間のランドマーク」でもある。さらに、日常を超えて新しい世界・新しい時代を志向するという芸術の性質を活かし、異なる世界が始まる場所という点でもシンボル性を有している。

水戸市と金沢市の2つの施設は、芸術の持つ力を活かした新しい時代を起動する装置だと言える。

委員:別の観点になるが、横浜市神奈川区のかなつくホールは小規模な施設ながら、稼働率も90%で、年間10件強の自主事業をやっている。横浜市においては区民館という位置付けになっており、みなとみらいホールや神奈川芸術劇場とは異なり、区民に密着したホールである。町田市が今後構想するホールは、既存の小さなホールとの棲み分けを考える必要がある。既存のものを大事にした上で、新しいホールに何を求めるのかを考えるべきだろう。

有金副市長:市民活動の基盤はできているとは思うので、日常を超えるシンボルをつくりたい。そのためには町田駅周辺がターゲットとなるだろう。様々な視点から情報をいただきながら、絞り込んでいく必要を感じた。

高橋副市長:ホールの位置付けにおいては、既存のインフラとの棲み分けも考慮した上で、将来に向けた軌道装置という役割を求める必要がある。中心市街地に建設することを前提として、街の装置としてのホールを考えたい。

石阪市長:芸術と文化の違いを踏まえると、変化や変革といったキーワードからホールを考えたい。

委員:ホールを検討するポイントは複数あるが、戻すべきポイントは、町田を発信することができるシンボルとしてのホールだろう。交通結節点や自然が豊富といったことが町田らしさに挙げられるが、街の歴史を考えると物足りない。100年後を見据えたアイデンティティとそのモチーフとなるものを考えないと、ホールが妥協の産物になってしまう。ただ、市民にとっての重要性のバランスは最後まで考え続ける論点になるだろう。

委員:ミュージア川崎が建設されて以来、街のイメージがよくなった。10~20年と時間がかかるものなので、時間を意識して参考事例を見るとよいだろう。

委員:富山市にオーバードホールという2,200席のホールができ、それ以前は金沢市で行われていたコンサートが富山で開催されるようになった。その結果、金沢市の若者が富山市に訪れるようになったり、富山市に若者がとどまったりするようになり、人の流れが変わったと聞く。鯖江市でも、サンドーム福井ができてコンサートが開催されるようになると、富山市・金沢市から人が訪れるようになっている。

町田は人口も多く、駅の乗降客数も多いが、通過しているだけの人も多いのではないかと。駅で降りてもらって、街でお金を落としてもらい、経済を活性化するようなホールがいいと考えている。

委員:「まつり」について研究している。「まつり」は、市と芸能と三位一体となってはじめて成功する。まつり・市・芸能は都市のなかににぎわいをつくり、各自の選択によって回遊性が確保される。ホールも同様で、単独であるのではなく、観よう、食べよう、楽しもうといった色々な選択ができるようになっていることが望ましい。

2. 議題:文化芸術によるまちづくり、ホールの経済効果

事務局が資料を用いてクリエイティブシティの事例紹介を行い、さらにホールが地域にもたらす経済効果について説明がなされ、委員による意見交換を行った。

委員:クリエイティブシティは、本来の主役は人材であり、人間のクリエイティビティが発揮されないといけないのだが、各地の事例を見るとハード整備になっている。

委員:20年前に松本市がホールを建設すると、これまで長野県への巡回を避けていたコンサートが開催されるようになった。長野市のホールが古かったこともあり、松本市が新しい街という印象を持つようになった。当時ホールで音楽を聴いていた子どもたちは30~40代になっているが、子どもの頃の経験が現在につながり、その世代の市民がまちおこしのイベントに参加しているようだ。

ホールの席数やスペックを検討する際には、周辺地域をよくマーケティングする必要がある。そうすれば、富山市や鯖江市のように、川崎や横浜の人たちが町田を訪れるという人の流れが生み出せるのではないかと。個人的には建築的な象徴よりも、街に人を呼び込むホールが望ましい。

委員:市民ホールは、住民だけでなく、市外からも人が訪れる。それがよくないという話ではなく、街の活性化につながるよいことだと説明しなければならない。

委員:東京芸術劇場は1990年に池袋駅東口に開館した。当時の東口は整備が進んでいなかったが、90年代以降、商業施設の増床や他の劇場の設置、さらには地下鉄の敷設等が行われ、観る、食べる、買い物を楽しむエリアになった。開館から20年という長い時間がかかっているが、経済効果はそれぐらいかかるものだと思う。

有金副市長:まちづくりをしっかりとやっていきたい。これまでと異なる人の流れを生み出したいので、人を呼び込むホールを考えたい。

高橋副市長:人の流れが大きなポイントだと思った。ホールの運営や仕掛けがあったからこそだと思うが、町田市がホールを考える点でも重要なポイントになるだろう。人が訪れる材料が何か、どう機能するのかを考えたい。

石阪市長:発信力やアイデンティティを決めていく必要があると思う。町田市には伝統やにぎわいがあるが、それらを芸術文化の発信にどのようにつなげるかを考える必要がある。ネーミングについても言葉を選んでいきたい。

委員:まちのシンボルは、それがあることによって、よい街だと思われる要素である。外見に関しては、現在と将来の町田を象徴するようなものをつくれるかが課題である。ソフトについては活動内容だけでなく、その魅力を対外的に発信する必要がある。活動を周知し、その活動のために足を運んでもらう必要がある。それがあってホールの役割が達成される。

芸術ホールなのか文化ホールなのかも検討する必要があるだろう。それぞれ背景のある言葉なので、吟味する必要がある。

ホールと街の関係では、都市開発におけるホールの位置付けを考える必要がある。駅との立地関係などの組み合わせのなかで考えていくことだと思うが、もし町田市が

クリエイティブシティを目指すのであれば、その政策内容とホールの関係も検討しなければならない。

最後に地域経済の話があったが、重要だと考えている。市民ホールが住民のためであることは当然で、その次のステップとしてホールを核としたまちづくりと経済活性化を考えなければならない。それを包括して考えなければ、ホールをつくる価値はないだろう。

委員：町田市民がサッカーを育てているように、文化芸術も市民が育てるのか。町田によいものがあっても人の目に触れなければ活かない。そのための人を呼び込むためのホールであり、経済活性をもたらすホールが素晴らしいと思う。

委員：都市開発の次元が変化してきているのではないか。これまでは見えるものが多く語られてきたが、普段は見えにくいが見ようと思えば見られるものをとらえようとしている。人の流れにしても、数ではなく質として考えることも必要だろう。

委員：六本木ヒルズ以降、再開発のレベルが上がっており、ビルをつくるだけの再開発は陳腐に見えるようになった。コンテンツ勝負になっているので、町田市もコンテンツのなかでホールやまちづくりを考えてもらいたい。

以上